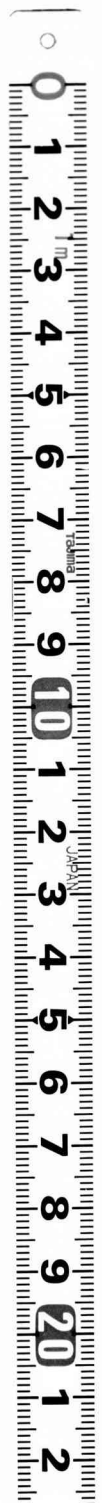


# 財団法人日本シヤム協會會報

第四十六號

昭和二十二年八月



昭和二十二年八月

財團 法人 日本シヤム協會會報 第四十六號

財團 法人 日本シヤム協會

## シヤム元老ブリーディー氏の思出

天田 六郎

昨年十二月十八日のロンドンタイムス紙上に、その前日サイアン大學の午餐會に出席したマウンテンバッテン卿の演説が掲載されたが、それはシヤムの元老元攝政前首相ブリーディー氏の事に言及したもので、當時ブリーディー氏夫妻はアメリカ訪問を終り、ロンドンに向う船中にあつたのだ。マ卿はブ氏をもつて東南アジア戦域における日本占領軍撃滅に最も重要な役割をはたした世界でも珍らしいロマンチックの人物であると推稱している。マ卿の演説は、シヤムに若干縁のある我々には殊の外興味深いものがあるので少しくここに引用することを許されたいと思う。

ブ氏は憲政シヤム政界の第一人者であつて、一九三二年同國の革命に若冠三十そこそこで革命黨文官派の頭領として表面に立つて以來、シヤムの憲政史は氏の進退と共に動いて來

たといつてよく、同氏の經歷を書けばそのままシヤム憲政史となるといつて過言ではない。従つて氏に對する議會方面その他少壯官吏等シヤム有識者層の敬愛は實に絶對的のものがあつて、皆氏を呼ぶにアーチャン即ち梵語の阿闍梨をもつてしている。學識一世に高いばかりでなく、有徳の仁という意味である。シヤムでは高僧を阿闍梨と呼ぶ外、在家の人でも學徳高いものをアーチャンと呼んで尊敬している。今ブ氏の事を語れば大きな傳記書ができ上るであらうが、ここではマ卿の演説に示されたブ氏の一面について少しく思出を書いて見たい。以下かつこ内はマ卿の演説中の章句である。

「日本軍がシヤムに侵入した時は開僚の一人であつたが、シヤムの對英宣戰に署名を拒んだので日本の支持したビブリン首相は彼を攝政に祭り上げた。その時以來彼は抗日分子の指導者となつた。」

一九四一年十二月初、日本軍はイギリスの東南アジアの根據地シンガポールを衝かんとして、大軍を南下せしめていた。しかし佛印南部に進駐していた大軍を英領馬來方面に移動せしめるにはどうしてもシヤム領を通過せしめなければな

らなかつた。日本軍もシヤム領土を侵犯することは敢てし得なかつた。そこでシヤム政府と交渉によるその承諾を得て日本軍隊がシヤム領土を通過するという形をとつたのだが、十二月七日之の交渉を開始した時、ビブリン首相は東部國境方面視察旅行のため不在だつたので、最初に日本大使の交渉の相手となつたものは、外相、外務省顧問の外、大藏大臣だつた。ブリーディー氏などであつたが、當時の形勢から、シヤムには日本側の交渉に抗する力は無かつたが、しかし彼等は極力戰禍がシヤムに及ばないように種々努力した。ブリーディー氏はその點に關する苦慮は我々にも諒解できた。しかし矢は既に弦を離れたのであつて、シヤム側の人々の努力や苦慮も狂瀾を押える程の力はなかつたので、ブリーディー蔵相は閣内の最重要地位にありながらこの國家の重大交渉にも最初一、二回顔を出したに過ぎなかつた。氏の無言の反日態度表明だつたのかも知れない。その後ビブリン政府が日本軍のシヤム領土通過の承認を與え、更に日暹攻守同盟が締結されて後、ビブリン内閣の改造が行われ、ブ氏は藏相の椅子を去つて攝政會議「アチャット殿下とウイチャエン大將がこれに任じ

ていた」の一員に任ぜられた。實際政治の地位を去つて國家の榮譽の象徴的な攝政の地位に就いたのだ。ブ氏の如き政界の第一人者で各方面の人望を集めている人物が、ビブリン内閣から去つたことは、日暹兩國の戦時協力の上から日本にとつて非常な損失だと我々は解釋したが、しかしその頃日本人間の一部にはブ氏は反日的政治家の一員と目されていたことも事實であつたから、氏が閣外に去つたことに關してもいろいろ取沙汰された模様だつた。權勢絶大なビブリン元帥といえども、閣内手腕聲望三つ共並ぶものないシヤム憲政の功勞者ブ氏を全然野に放置することは出来なかつたであらう。そこでマ卿の述べたように氏の攝政就任は氏が敬遠され難よく祭り上げられたとの見方が當時多く行われたことも事實だつた。

「外部からブ氏と連絡をとることは困難であつたが、丁度自分が東南アジア軍最高司令官に任命された同じ頃遂にその連絡がとれた。當時連合軍の最高司令官が敵國の國家首席と重作戦計畫を交換し合うといふことは全く奇妙な現象であつた。」

一九四二年後半頃からボツボツいわゆる自由タイ運動なるものの地下工作に關し我々の耳にさえ入るようになった。廣大な太平洋戦域における日本軍の作戦の上にはその頃から一部のそが生じて来た模様だったので、シヤムのような極めて微妙な立場におつた國柄としては地下抗日運動のごとき當然の事と考えられた。その頃世間的若干知られたシヤム人が奇妙な失態をするものが出てきた。彼等は多く重慶方面に潜入したか、他の何等かの方法で連合國側と連絡のため出國したものと考えられていた。この自由タイの地下運動に關してはシヤム警察局長のサラコン少將という人が終戦直後地下警察という本を著して詳に戦時中の抗日運動について記述している。その中にシヤムジャングル地帯の秘密飛行場建設のことが書いてある。しかしこの飛行場については日本軍も既に探知していた模様で、一八四四年頃日暹兩軍委員の手で飛行機による調査も行われたように聞いている。我々の想像ではそれ等の秘密飛行場の撃破に要する準備がシヤム駐屯日本軍の力には十分でなかつたかとも疑つた。

しかし何れにせよ、前記サラコン少將の著書によれば、シ

ヤムの地下警察隊の抗日準備は一九四四年から四五五年にかけて完成され、バンコックの日本軍の重要部隊はその首脳者と共に一網打盡にせん滅される手筈となつていたので。サラコン少將の指揮した地下警察隊の作戦はその當時の警察局長を通じブリーディー氏の方寸と相通じ連合軍最高司令官としてのマ卿の幕下に直結されていたのだ。

『戦争の末期ブ氏は六萬人の戦闘員および多数の消極的支持者から成る対日意業グリラ隊を組織し、全國の要所に配置され、何時でも打つて出る體勢にあつた。』このマ卿の言葉はよく前述の消息を語っている。

戦争末期バンコックに在任したものは市中隨所に築かれたトーチカやバリケードの物々しい外装や、そこから、かもし出される無氣味の空氣に威壓されたことを記憶するであらう。

『ブ氏が如何に勇敢に且つ效果的に日本軍の鼻の先でその裏をかいたかを示す事例として、一九四四年ビーン政権を開放し、ブ氏の指名した閣僚から成る政府を組織せしめ、この政府を通じて抗日計畫を推進し得たことを挙げられる。』

一九四四年七月頃、時の首相ビーン元帥は議會から二つの勅令に關する立法措置をめぐつて猛烈な反對を受けていた。今から當時を回想しても、その反對の外皮は極めて單純のもので、ビーン内閣の生命取りになるなどは到底考えられない程のものであった。にも拘わらずビーン首相は議會内外の總反對を受けて遂に退陣を餘儀されてしまつた。外觀單純の反ビーン運動には實は多数のシヤム人の反日氣分の凝集があつたのだ。

ビーン首相の態度は對日協力の上に時に甚だ消極的であるとして、日本人側の一部から好く思われていなかった。性急者の軍人の間にはビーン政府排除から更に進んでシヤムを日本軍の意の添うよう動かし得べき措置の必要をさえ云爲するものもあつた模様だ。

ビーン首相の後を受けて出たアバイオオン首相は前者に比し解放的で明朗だったので表面非常に協力的にも見えた。日本人はアバイオオン内閣出現を喜んだ。だからといつてビーン首相排斥アバイオオン内閣擁立の片棒をかついだ日本人もあつたと想像することは行き過ぎであらうが、當時のシヤム政

界の動きは頗る微妙なものがあつたことは我々にも感得される。今マ卿の演説を讀んで思ひ當る節が多いのであるが、國家の運命なども或る方向に動いている時はたとえ衆智の力を集めてもどうにもし得ない勢にそのまま押されていくものだということを感ぜしめられるのだ。

ブ氏は今シヤムの元老として一世の尊敬を集めている。一九三二年の暫定憲法から恒久憲法の發布には大きな役割を果たしたが、第二次世界大戦後の情勢に即應する新憲法は一九四六年彼は首相としてその公布に署名している。戦時シヤムの救國主は平時憲政シヤムの生みの親から育ての親としての役目を完全に果したブ氏は正しく近世國際政治史の上にも珍しいマロマンチックの人物に違いない。彼の事をかけば、興味のある事も切りがない。ここにはマ卿の演説に關連して彼の一面を書いた。

## シヤムの兩頭外交

保 下 進

エドガー・スノーといえば中國共產黨通として知られてゐる。アメリカの大學を出てから中國に來て長く研究。終戦後日本へも來たが、戦時中シヤムに行つたとみえて、シヤムの見聞記をサターデイ・イーヴニング・ボウスト(廿一年一月十二日號)に「シクレット・フロム・サイアム」と題して、約三千五百語ニッポンタイムス紙にして凡そ四欄のものをのせてゐる。その大要を紹介しよう。

ベネット・カーフは最近の小説中にシヤムを形容し、家事に氣をかけて、ねぐらへ急ぐ途中、バトミントン遊びにひかかつて一夜をあかし、取亂した姿で翌朝歸り、主人鳩にうたぐられてゐる奥さん鳩になぞらえてゐるが、シヤムは、日本がフランスと協約し佛印を占領した後は、イギリスと日本と

員會形成し、東南アジア最高司令官マウントバッテンに平和を議すべく代表者をキャンデーに送つた。

ビブーンとブラディットはシヤム政治の双生児といわれる程協力したが、今度は互ひに分れ、ビブーンはファッシストと烙印され、かつては共産主義とよばれたブラディットは攝政となり時代の英雄、國民の指導者となつた。

ブラディットはバリ大學に學び法學博士の學位をとり若き過激論者間に知友を得た。バリ時代の彼の友人は今、佛印・チャワ・インド・ビルマ・中國の國家主義になつてゐる。彼は一九三二年までは絶對君主制を倒しシヤムを近代國家に改革する指導者と認められた。一九三三年の反革命を制壓しブラディットを首相とする立憲政府を再建したのはビブーンであつた。

二人とも支那の血をひいてゐる、ブラディットは四分の三も。彼等は國家の財政を華僑からとるべく強行し、十年間に封鎖絶對主義から比較的進歩的な立憲君主政治にかえ、治外法權も撤廢した。一九三八年ビブーンは首相兼國防相となり憲法をふみにじり、又、ブラディットを内閣に引留めるに努

の板ばさみになつて、どの道のがれられない運命にあつた。

シヤムは日本下の共榮よりも厳しい降服條件に満足した。イギリスはシヤムに廿一ヶ條の要求をした。——三十年前日本

の對支要求も廿一ヶ條だつたが——シヤムはフランスとは戦つていなかつたが、フランスは俄かに勝利者となつて要求し始めた。シヤムは中國とは戦はなかつたが、重慶は占領軍をバーンコークに送るといひだした。シヤムに一切宣戦しなかつたアメリカのみが合理的であり、アメリカの仲裁はシヤムがイギリスの經濟殖民地に墮すのを救つた。

シヤム人にとつては南アジア五億の民と同じく、第二世界戦争は自由か隷屬の戦争でなく、富源支配に張合う帝國主義者間の戦にすぎなかつた。「アジア人のアジア」という日本のスローガンはシヤム人に訴えたが「シヤム人のシヤム」は彼等の眞の希望であつた。

シヤムはビブーンを戦時中首相の地位から追出し、日本との同盟に反對しアメリカの助をもつてできた地下組織の首領たりしブラディットが支配した。新首相就任、政治犯人釋放、議會召集、アジアにおける最民主的新憲法宣布、戦犯起訴委

力した。實際誰も彼の他に一國の紛糾せる財政を分析し得なかつた。しかしビブーンは自己に反對の革命發起者を腹心と取替へたり、或ひは無帽外出、バメン着用、外人とのダンス、華僑の特定地域居住等を禁じた。しがしビブーンのカムボヂヤに關する對フランス策は反對者をも喜ばした。フランスはさきにカムボヂヤをとつたが、ビブーンは西カムボヂヤを回復した。フランスは小額の現金代償をうけ、領土は當時尙アメリカに承認されたウイシー政府によつて受諾され本條約において正式に引渡された。

ビブーンの勝利は日本の後ろ立をもつて確保され、日本はシヤムに權軸に参加するよう數ヶ月間大壓を加へたが成功しなかつた。十二月一日シヤムは侵略され、バーンコークへの進軍に抵抗を試み、ビブーンは内閣を召集し意見を求めた。

シヤムは日本に反對する機會が無かつたとは總ての者が一致する處であるが、ブラディット達はシヤムの國際的地位を聯合國例にたてるため兆象抵抗に賛成した。ブラディットは日本との同盟や如何なる宣戰布告にも反對した。ブラディットはビブーンはその時權軸は屬つと確信し如何なる反對論にも



耳をかきすイギリスアメリカに宣戦を決心したとスノーに語つた。

シヤム政府は、第一、宣戦は議會によつて批准されなかつたから違憲であり、第二、日本のシヤム侵入を可能ならしめたのは佛印の協力であるとして、連合國の特別の考慮を願つてゐる。日本の支配を不可避として受諾するにおいて、シヤムはフランスに精々張合つただけで、しかもフランスとは異り、シヤムは聯合軍と決して戦はなかつた。

一九四二年閣員や高官達は秘かにビブリンの政策を否認しブラディットは内閣より辭し若き國王の攝政を勤めたが王はビブリンの行動を決して是認しなかつた。アメリカはシヤムを連合國側として暗黙の中に認めシヤムの宣戦に對して報いなかつた。

オックスフォード仕込みで藝術家のセーニー・ブラモートは當時アメリカ駐在公使であつたが一九四二年一月ビブリンが傳達を命じた宣戰布告に怒り、涙をうかべて如何にハルはその覺悟を渡したかをスノーに告げた。

ブラディットはバーンコークの眞相と人民の反日態度をセ

ーニーに報じ、セーニーは自由シヤム政府の組織に凡ゆる援助を借りることをハルと約束した。ハルと大統領はアメリカの宣戦を差控えることに一致し、セーニーはビブリンの政策否認を放送しシヤム人民の助を得べく飛行機で飛んだ。

シヤムの地下組織はワイルド・ビル・ドノヴァン陸軍少將の作戦部が最もすばらしく、アメリカではセーニー公使がシヤム學生を登録し作戦部の指圖にゆだね、作戦部は彼等を情報機關とし武器、ラジオ、サボタージなどの方法で指導した。イギリスでもシヤム學生は軍に訓練されたが、總じてシヤムの計畫はイギリスよりもアメリカに多く指圖された。

シヤム人は一九四三年までは多く支那やインドに歸り一九四四年には海空により入國、一九四五年上期にはシヤムやアメリカ將校が集團をなして入つた。數噸の武器彈藥が日本戦線の後方にアメリカ輸送機で運ばれた。ブラディットは作戦部員には「ルース」として知られ、副攝政で副首相にもなつたアドンデーチャラーツも「ベティー」といふ暗號名で、バーンコークに住むアメリカ將校を圍ひ、攝政との往復文書を運んだり、アメリカイギリス機が支給品を下す空港を部下に

守らしめた。その他作戦部には日本司令部とビブリンとの連絡官をつとめた主任の大佐もあつた。背後の丘や粃米の中にアメリカ人は九萬の不正規兵を備へた。

ブラディットは外部からのクーデターと内部からの武装革命に備へつゝ、一九四五年三月日本が佛印に戒嚴令を布い下ヴィシーの支配をとりあげた時、旗あげたは今だと決心した。ブラディットは日本がシヤムの軍隊警察を武装解除し、戒嚴令を布くを期待した。七月には日本司令部がブラディットに大借款を要求したが攝政として又財政の支配において之を拒否した。その結果は日本直接行動であると思つたので革命の時は來た最早猶豫はできないとワシントンに電報したが、その要求はキャンデーのマウントバツテンに覆された。イギリスは準備ができてなかつた。

マウントバツテンが蜂起の機會を與へず好機を逸したので地下組織は日本の降服直後政府をもつた。イギリス兵が到着する數週間前にアメリカ人は解放者としてバーンコークに視察された。

シヤムは北マライイから徴兵し、これらの州に對する以前の

主張を放棄した。イギリス占領軍には宿舍食物を供し、ボンドに對しては、七十五パーセントのパーツの交換率に同意した。又、國內の日本兵九萬五千を直ちに武装解除するに同意し、エヴァンス大將と第七インド部隊が國境を渡る前には既に完了してゐた。

アメリカはバーンズ長官がシヤムに何等賠償を要求せず又國際連合加入に賛成するであらうといつた。

當初の軍事協定署名後は、キャンデーにおけるシヤム代表はシヤムイギリス間に結ばれる條件を大體知らされてゐた。これは極秘であつたがアメリカにはそれが知れてゐるとシヤムでは思つてゐた。それ故連合國がシヤムに如何なる書類を出しても同意する様中央政府では命令した。いよいよ九月三日マウントバツテンはシヤムをキャンデーに調停午餐に招いた。彼の政治顧問と外務代表は署名すべき書類を用意してゐた。所がバーンコークではブラディットにより彼の自宅附近の家に終戦前數ヶ月間かくまわれてゐたアメリカのハリ・パーマー陸軍大尉はシヤムがイギリスの苛酷な要求に従はうとしてゐると知つたのでキャンデーの作戦部長コクラン

大佐にそれを電報しコ克蘭大佐はシヤムが署名すべきはその書類の寫を午餐前に見た。要求は油、木材、米、ゴム、錫輸出の獨占權、シヤム海運の支配權、要地無期限駐兵權、陸海軍基地、バーンコーク經由商業航空路の獨占權をイギリスに與へること等、驚いたコ克蘭はワシントンに電報し、アメリカから何分の返事あるまで署名しないよう彼自身の責任においてシヤムに説いた。これはセーニー・プラモートも來るべき數年シヤムを奴隷國にするであらう」という廿一條の要求であつたがシヤム代表はその中五條は同意し得ると摘出したが残りは本國に請訓した。その五條中に國名をシヤムにもとず要求もあつたのである。

ワシントンでは廿一條條については何も知らなかつた。國務省は白聖館に抗議を託した。極東における勝利に貢献したからには條件提出の事前にアメリカは相談にあづかるべきものと感じ、白聖館はマウント・バッテンに彼の權限をこえたと回答した。

アメリカはキャンデーにオブザーバーを送りシヤムは元氣を出しイギリスは變更を考へた。しかし十月にはイギリス

はこのアメリカの干渉を打ちかへすためフランスをさそつた。イギリスはカムボヂヤをシヤムに渡すフランスの要求は究極の降服條件の一部であると主張した。セーニー・プラモートはスノーに「余はシヤムを六十年間奴役に賣るため首相になつたのでない。フランスは我々の無垢を傷けた最後の國である。我々はカムボヂヤ問題の唯一公正な解決は國際的に管理された人民投票であると思ふ。我々は眞に民主政府を立てようと最善をつくしてゐるが、もし我々が人民を殖民的奴役に賣らなければならぬならば、政府も民主政治もつぶれるであらう。余は先づ辭職するであらう」と。

シヤムは今はどうすることもできない。未だ動員されてない戦前の陸軍、日本の裝備、ドノヴァン大將より不正規兵に與へられた小銃彈丸の兵備と、アメリカが太平洋憲章テヘラス約定をイギリスに想起せしめるであらうとの信頼だけである。

十二月までには廿一條條は數において減ぜられたが内容においては左程でもない。連合國が或る形式の賠償を要求するであらうとはシヤムも認めていた。シヤムはイギリスに對し

決して戦はなかつたしイギリスもシヤムを打たなかつた。しかしシヤムは日本を助けなかつたことも眞實である。四ヶ年の占領中日本はシヤムから十五億バーツ（正常交換率で六億ドル）の食物産物衣料住居勞務などを引出した。シヤムは佛印の如く基地を供し、日本の供給通信路を守り、或る地域の守備もした。連合軍俘虜虐待で有名なモールメン鐵道建設にタイ人の勞力が補充された。シヤムにおけるイギリスの權益は大損害をうけた。

シヤム現在の政府はフィリップスの如く、地下組織を助けましたが、協力者であつた關係數名を含み、ヒブーン方策を受諾した同一議會で、之が解散改選が必要である。攝政や首相が戦犯人として審問せんとする者が議會特免を享受する限り召喚告訴もできなかつた。政府は連合國よりの政治的社會的政變要求を考へているがワシントンよりの聲を何よりも注意してゐる。所がワシントンからは廿一條條の挿話以來あまりない。一官吏はスノーに「困ることはアメリカが我々に何も要求しないことだ。我々のエメラルド佛像さへも」と悲しげに眞剣に語つたと。實際イギリスがその賠償要求に航空權

をいれなかつたらアメリカは少しも干渉しなかつたらう。何となればたゞ空中にのみ、世界のこの部分におけるアメリカ政策の背後の具體的戰略的的物的標を見ることのできるから。アメリカの航空路は既にシヤムに設定された。終戦後アメリカの在インド空軍司令部は東南アジアの軍營地からアメリカやヨーロッパの俘虜を運ぶ計畫を報じた。アメリカは飛行機を用意してゐるが、イギリスには無かつた。我々の作戦部官は直ちに地上設備をしてゐるがイギリスは拒絶できなかつた。しかし一旦俘虜が全部去るや空軍司令部は主に陸軍職員や作戦部諜報員や従軍記者を官費で運んだ。これらの浸透策略に驚いてイギリスはイギリス空軍を輸送事業に使ひアメリカを押し出そうとした。空軍司令部は大型ダグラスC五四を使用し、イギリス空軍がさらに大型機を使用したアメリカはC五四を引込めたがC四七をとばした。それからSEAC本部は突然我々にラングーン、シヤム、サイゴン、シンガポール、パタピア線をやるよう命令した。しかしイギリスは不幸ケインズ氏が尙その時六十億ドルからワシントンに話そうとして、抗議はルイス卿の命令の撤回となつた。空輸

司令部はアメリカの商業路に對する借用權を得るため苦心しつゝあつた。住民からは支持を得、シヤムは二つの宮殿を空庫司令部の使用にまかせ、職員や旅客には無料で國庫司廚を供し無料キスキーを無制限に供し、バーンコーク市をアメリカ人に面白くする様官吏が割當てられた。ビブーンは「余はシヤムの獨立を救つた。余は國を支那の運命より救つた。又余はエメラルド佛像を東京へ持ち去られることより救つた」と自己の政策を辯護してゐる。多くの事はアメリカがシヤムを固き友として欲するや否やにかゝる。シヤムもまた固き友であることを主張する。しがし更にはアメリカがバーンコークを商業空港として如何程評價するかにがゝる。

## シヤム情報

### ○シヤム、クーデター失敗(二・二・三NT)

昨日警察は空軍將校廿名を檢擧し、政治クーデターを失敗に歸せしめた。一味は去る日曜夜中、ダムロン・ナーワラー

ワット首相および内閣を捕提する計畫をなしてゐたと警察は言明した。(バーンコーク一・二二共同AP)

### ○パノムヨン前首相盜難(一・二六NS)

警察の發表によれば、前シヤム首相ブリディー・パノムヨンは價格三萬ドルの寶石を日曜日盜まれた。同氏はアメリカ政府の賓客としてアメリカに旅行中である。寶石は日曜夜、同氏夫妻が食事中、ビバリヒルス・ホテル小舎から盜まれた。(ビバリヒルスINS一・二五)

### ○印度支那、シヤム正常關係に復歸

(二・二〇東京タイムズ)

八日のサイゴン放送によればフランス軍は今回シヤムからカムボヂヤならびにラオス王國に返還することになつた領土の接收を七日から開始した。これによつてシヤムとインド支那連邦ならびにフランスとの緊迫した關係は終りをつけたわけだ、バーンコークにおける双方の外交關係は再開され、フランスはシヤムの國連參加申入れ反對を撤回することになつ

た。(メルボルン放送二・二・八RP共同)

### ○前首相大統領訪問(二・二・一東京タイムズ)

在米中のブリヂ・パノムヨン前シヤム首相は九日トルーマン大統領を訪問、太平洋戦争中シヤム國民によせられた米國の援助について謝意を表した、同氏は近く歐洲經由シヤムに歸國する。(ワシントン二・二・九フランス通信共同)

### ○シヤム加入の考慮延期(二・二・二NT)

安全保障會議はシヤムの國際連合加入申込の考慮を次回會合まで延期した。(レイクサクセス二・二・一共同AP)

### ○アメリカ駐在シヤム公使決定(二・二・三NT)

ワンワイタヤコーン殿下はアメリカ駐在シヤム公使に水曜日任命された。シヤムは今、ニューヨークにおいて國際連合加入を求めつゝある。かつての連合加入申込は國境紛争によるフランスの反對によつて一蹴された。(バーンコークINS二・二・二)

### ○シヤムより錫の輸入(二・二・一七NT)

イギリス、オーストラリア、アメリカ、はシヤムからの錫の輸出に關し協約に達した。(ロンドンBBC二・二・一六)

### ○ソ連シヤム外交開始(二・二・一七朝日)

五日のモスクワ放送によれば、ソヴェト政府は五日シヤム政府との間に外交關係を開始した。(ロンドン五日AP共同)

### ○ブラヤー・パホン元帥(二・二・一六讀賣)

十四日腦溢血で死去した、享年五十九、一九三二年の革命の指導者でその後二回首相となり、昭和十七年日本を訪れたことがある。(バーンコークAP共同)

### ○トルーマン・シヤムの努力賞讃(四・二〇NT)

トルーマン大統領は木曜日駐アメリカ新任シヤム大使ワン殿下の信任状を受けた時、連合國戰爭努力に對し抵抗によるシヤムの貢獻を賞讃した。大統領は日本がシヤムを侵略した



時アメリカはシヤムに存在すると確信した抵抗運動に直ちに協力する用意をしたといつた。「自由と民主主義に對するシヤムの決意の信頼は認められた」(四・一九ワシントン國際ニュース)

#### ○佛シヤム仲裁委員會(五・八時事)

シヤムとインドシナの國境問題に關する永年の紛争を解決するために今回五人の委員からなる佛シヤム仲裁國際委員會が設置され五日ワシントンで第一回會議を開いた。同國の紛争の地域はラオス、カムボヂヤの一部で、戰爭中日本がシヤムに與えたのを昨年十一月十七日の佛シヤム協定でインドシナに返還されたものであるが、協定の締結にあたり最後の決定は仲裁國際委員會が問題を民族地理、經濟の各方面から検討して作製する勸告案によつて行われると規定している。(ワシントン五・六UP共同)

#### ○シヤム内閣總辭職(五・三〇毎日)

シヤム國のダムロン・ナーワワサワツ内閣は廿八日總辭職

した、國會は廿九日午後兩院協議會を開いて後任首相の指名を行うこととなつたが、ダムロン氏を再指名するものと見られてゐる。(バーンコーク五・二八ロイター共同)

#### ○アメリカ・シヤム貿易好況(六・一〇NT)

アメリカ・シヤム貿易は景気づき、さる日曜シヤム當局はアメリカ實業家および商品のため歓迎宴を催した。(バーンコーク六・九インクローナショナル)

#### ○極東經濟會議開幕(六・一八朝日)

國連アジア極東經濟會議は十六日上海でイギリス、オーストラリア、中國、フランス、オランダ、インド、ヒリッピン、シヤム、ソウエト、アメリカの十ヶ國代表が參集し開催された。(上海六一六AP共同)

#### ○シヤムの要求拒絶(七・二NT)

シンガポールよりの報道によれば、國際仲裁委員會は佛印がシヤムより得たる領地のシヤムの返還要求を受諾すること

を拒絶したと。同委員會はシヤム・フランス兩政府に兩國はその意見をバーンコークにおいて取極めるよう勸請した。(六・二〇メルボル・シラジオプレス)

#### ○シヤム中國會議(七・一七NT)

シヤム・中國間の航空協定は數日中に始められる筈。(七・一六南京發共同UP)

#### ○シヤム米強制買上(八・一二東京)

シヤム政府は十日國內在荷米全部の強制買上を命令即刻實施した。(バーンコーク八・一〇AP共同)

#### ○佛印邊土をシヤム放棄す(八・一五NT)

シヤムは佛印國境領域に對する主張を火曜日放棄し、六十年の紛争を争つた。シヤム議會はフランスがその領域を保有するといふ五ヶ國和解委員會の斡旋を受諾した。シヤムは一九四二年壓力をもつて取得した後は、假約定において同地を既に返してゐた。(八・一四バーンコーク共同AP)

### 雜 報

伊東隆治氏(元シヤム公使館一等書記官) 參議院議員當選

### 協 會 記 事

#### ○役員異動

理事 鶴見左吉雄氏 逝去(廿一年十二月十七日)  
理事 岡田永太郎氏 辭任申出(廿二年二月)  
評議員 井上雅二氏 逝去(廿二年六月廿三日)

#### ○會員動靜

徳川頼貞氏 參議院議員當選  
三島通陽氏 參議院議員當選  
中村嘉壽氏 衆議院議員當選

昭和廿一年八月廿一日印刷  
昭和廿二年八月廿八日發行  
(非賣品)

發行所 東京都杉並區荻窪二丁目一三  
財團法人 日本シヤム協會

電話 荻窪 四二七〇  
振替口座東京 一四八三一

會員番號 B 二二〇六九

東京都杉並區荻窪二丁目一三

編輯人 星 田 晋 五

印刷人 東京都文京區西片町三番地にノ三  
井 澤 廣 夫

印刷所 東京都文京區戸崎町七八番地  
印刷藝術社